

千葉県ウォーキング協議会9月例会

～勝浦市興津の歴史を訪ねて～

9月30日快晴。総勢7名で勝浦市興津の町を歩いてきました。

千葉県勝浦市は古くから和歌山県那智町とつながりがあり漁業が盛んな地域です。房総半島の太平洋に面した興津は古代より海産物の豊かな地域として発展してきました。



スタートは外房線興津駅。

外房線沿いに500メートル歩くと日蓮宗妙覚寺に到着。妙覚寺は興津城主佐久間重貞が文永11年に開いたとされています。

江戸時代に入ると興津は幕府直轄領として栄え、特に興津港は江戸と東北を結ぶ重要な廻米（江戸などへ米を送る）港として繁栄を誇りました。境内には仙台藩の役所が設置されるなどの様子が石碑に説明されるなど当時の遺跡が残されています。

妙覚寺から海岸の方に700m歩いて「興津港海浜公園」に到着。ここには仙台藩が設置した「繫船柱」の実物が残されています。

なお、興津港に面し興津海水浴場はブルーフラッグ賞を獲得していて大変美しい海岸と



しても知られています。公園には波を体感できる栈橋があり「興津オーシャンブルー」を堪能したウォーキングでした。

興津港海浜公園を出発し国道128号線を5km歩くと滑川アイ

ランド駅に到着します。

滑川アイランド駅横の海岸の崖上には「孝女おせんのおせん」が設置されています。おせんは父親を代官から守るために身代わりになって崖から転がり落とされ亡くなりました。興津に伝わる伝説です。

興津駅からおせんころがしの石碑まで約6キロメートルのウォーキングでした。



接戦あり、サヨナラゲームあり!

~~第49回選抜大会トーナメント戦開幕!~~

今年で第49回目を迎える千葉県野球協・秋のトーナメント戦が、9月28日（日）酒々井総合公園野球場で開幕しました。

初戦の舞台となる球場は、いつも使われている千葉市内の球場と違い周囲は緑に囲まれた静かな環境の下、第1試合「Smokers」対「Rossowave」と第2試合「アルティメッツ」対「千葉ファーマシーズ」のオープニングゲーム2試合が開催されました。



第1試合は、先攻「Rossowave」後攻「Smokers」で14時5分プレーボール!

両チームとも好投手を擁し、守備陣も再三の好プレーが目立ち、お互い一步も譲らずがっぷり四つの展開。Smokersがあげた1回の1点を守り切るいわゆる「隅1」のスコアでSmokersが開幕戦初勝利を挙げました。

試合終了後Smokersキャプテン「相手チームの実力からこのブロックでの初戦がヤマだと思っていたので勝ててよかったです。」と満面の笑顔、それもそのはず先制点は同キャプテンのタイムリーヒットでもぎ取ったもの。

一方、惜しくも再三塁を埋めながら後一本

が出ずに勝利を逃がしたRossowaveキャプテン「あと一本が出なかったのは残念です。次の試合は頑張ります。」お互いのチームへのリスペクトが目立った試合でした。

続く第2試合。先攻「アルティメッツ」後攻「千葉ファーマシーズ」は15時45分プレーボール。



2回の裏千葉ファーマシーズが上げた1点以外は淡々とした試合展開でこのまま終わるかと思いきや、最終回（6回表）ア

ルティメッツが粘り腰で2点をもぎ取り逆転。このまま6回の裏の千葉ファーマシーズの攻撃を0点に抑え逃げ切るはずが……。なんとアルティメッツ投手陣の乱調で得た満塁の好機にタイムリーが飛び出し再度の逆転劇で千葉ファーマシーズが初戦を勝ち取りました。

時あたかも日没寸前の劇的なサヨナラゲームでした。

今回はトーナメント戦には初参加のチームも多く参加しているそうです。12月7日天台球場の決勝戦にはどんなチームが出場してくるのか楽しみな開幕戦でした!

<第1試合>

| チーム | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 |
|-----------|---|---|---|---|---|---|---|
| Rossowave | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Smokers | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | X | 1 |

<第2試合>

| チーム | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 計 |
|-----------|---|---|---|---|---|---|---|
| アルティメッツ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 千葉ファーマシーズ | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 |

卓球全国大会一般の部出場選手決定 千葉ポートアリーナで予選会

第61回全国卓球選手権大会（一般の部・個人戦）の千葉県予選会が、まだ暑さも残る9月13日（土）に千葉ポートアリーナ（千葉市）で開催されました。



卓球の全国大会は、年代別が団体戦・個人戦ともに2025年11月27日から30日にかけて、長野県松本市のエア・ウォーターアリーナ松本で開催されます。年代別の予選は6月7日（土）・8日（日）に団体戦が、8月16日に個人戦が開催され出場チーム選手が確定しており、一般の部は6月7日（土）に団体戦の予選が開催されただけで、個人戦は持ち越されています。

この日の大会には男女70名が参加し、全国大会への出場権をかけ熱い戦いを繰り広げました。

男子は、AからNまで14ブロックに分かれ各ブロックで1位となった選手14名によるトーナメント戦を行い、勝ち上がった上位10名が全国大会への切符を手にするという狭き門でした。

全国大会への切符を手にしたのは以下の皆さんです。（カッコは所属チーム名）

優勝した荻村崇平さん



男子は

荻村 崇平（すみれ）

高橋 秀和（すみれ）

島村 亮

（043：ゼロササ）

板倉 大介（TRF）

渡辺 光太郎

（ブレイザーズ）

川西 澄

（伊倉リバーホーム）

田村 洸大（Ava）、鐺 涼太（FCユニオン）、

加藤 粹

（伊倉リバーホーム）

吉田 幸司（すみれ）のみなさん。

女子は杉原 加奈（Lit）さん。

全国大会での皆さんの活躍を期待しています。

準優勝の高橋秀和さん



この日は、これまで大きな会場が確保できていなかったこともあり、一般の大会開催が要望に見合うだけ開催出来ていなかったことから、男子・女子・混合のダブルス大会を併せて開催しました。



大会には116ペアの選手の皆さんが参加。

賑やかな大会となりました。



常任理事会報告

9月18日（木）県連盟事務所において、53期第6回となる常任理事会を開催いたしました。

【活動経過】

- 9/5 スキー運営委員会
- 9/13 卓球全国大会一般の部個人戦予選
卓球ダブルス戦（オープン）
（千葉ポートアリーナ）
- 9/14 野球協トーナメント戦キャプテン会議
- 9/30 ウォーキング例会（勝浦興津）
- 10/6 スキー協運営委員会
- テニス協議会開催試合（8/23、9/7、
9/13、9/14、9/15）、
- 野球協リーグ戦（8/24、8/31）

【協議関係】

- 新日本スポーツ連盟60周年記念レセプション
 - ・各協議会に声かけをして参加者を募る
 - ・卓球協議会から2名打診中
- スキー祭典における事故と見舞いについて

- ・ 第5回（前回）常任理事会において確認した傷害見舞金に準じた見舞金を県連盟から支出する。
- ・ 主管団体としてスキー協議会からも3割程度の負担を求める。

○ 四街道総合公園を会場としたリレーマラソン

- ・ 四街道市地域振興財団から要請のあった上記リレーマラソンについてGoogleFormを利用したアンケートを実施する。
- ・ アンケートに協力いただいたチームに粗品（これまでの大会の副賞、参加賞等）を進呈する。
＊ 後日、四役・ランニングクラブ会員にWEBにより承認を得た

○ 第25回全国テニス選手権大会について

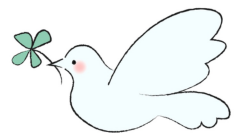
- ・ 千葉市から後援決定通知
- ・ 千葉県も後援を前提に申請書の字句等の訂正申し入れあり
- ・ 後援確定後に「チーバ君」の使用申請

○ スポーツ庁宛要請書内容の検討

- ・ 地球温暖化とスノースポーツについての記述を追記を検討してほしい旨、全国に意見を上げる
- SportsNetちば10月号、11月号の掲載記事の確認

スポーツアラカルト

戦後80年に思う



この夏8月は戦後80周年としてTV、報道機関が数多く終戦を取り上げました。

その中でも元プロ野球選手の張本勲さんが体験談をあるTV局に出演し自らの思いを語りました。

広島出身の彼は5歳で被曝し2歳上の姉上は全身火傷をおい数日後亡くなったそうです。戦争体験者の彼は核、戦争の恐ろしさと酷さを感じあえてTVの前で語りました。

先の参議院選挙の当選者へのアンケートで『今の日本に核兵器を保有すべき。』と答えた議員が8名（参政党6人、自民、保守各1名ずつ）また都京地方区当選者の参政党議員は『核武装が

安上がりで最も安全を強化する策のひとつ。』と主張。

前出の張本さんは、『あなたの親族が被害にあっても核兵器を容認するのか？』と問いかけていました。

「新しい戦前」との危機感と気づいている人もたくさんいると思います。

新日本スポーツ連盟は「スポーツは平和とともに」のスローガンを掲げ活動しています。

歴史の岐路に立つ今 しっかりと社会に目をむけていきたいです。

新日本スポーツ連盟千葉県連盟
副理事長 田久保 孝一



- ①クラブ（チーム）TRF
- ②代表者 岡野 淳一
- ③連絡先（住所・電話番号・HP等）
県連盟にお問い合わせください
- ④チームの概要

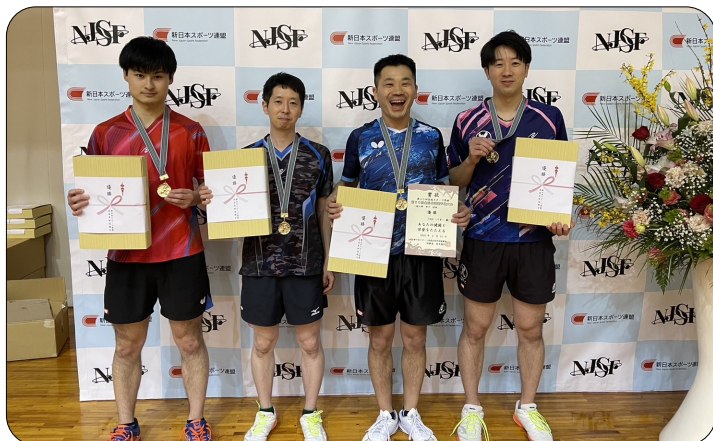
<名前の由来>

次の英語の頭文字からチーム名としました
Table tennis Relationships Friends=TRF
翻訳すれば「卓球が結ぶ仲間」とでもなりますかね？中々気に入っています。
発案者は代表です。

<チームの特徴>

卓球というスポーツで知り合った職業も年齢も違う選手達が集まり、全国大会の遠征先でご当地グルメを堪能し親睦を図り、上位を目指しています。

因みに昨年（2024年）宮崎・都城で開催された「第60回全国卓球選手権大会（第35回全国スポーツ祭典）」では一般の部団体戦で10年ぶりに優勝することが出来ました。試合後は宮崎のグルメを堪能したことは言うまでもありません。創立は、2005年です。



<練習日程等>

練習は各自で、目標をもって行っています。
定期的はありません。練習場所は公共スポーツ施設等で行っています。

<登録人数等>

31名

構成は、20代 6名、30代 12名、
40代 6名、50代 6名、
60代 1名
募集は行っていません。

⑤クラブのアピール（2025年度の抱負等）

チームワークを大切に選手同士の親睦を図り、来年2月埼玉・所沢で開催される全国大会では「一般の部」で2連覇に挑戦、そして今年11月長野で開催の「年代別の部」では入賞を目指します

TRFは今年の予選会でも大活躍。
個人戦では一般の部で1人、年代別では6人もの選手が代表入りしています。



また、団体戦でも一般の部は全国推薦で、年代別では30代が全国推薦、40代・50代は予選会で優勝し、全国大会への切符を手に入れています。

11月の松本市と2月の所沢で、チーム名の由来となった「卓球が結ぶ仲間」の皆さんと、TRF旋風を巻き起こしてください、

（文責 園川）

SPORTS CALENDAR

10月

10月5日(日) テニス3ペアチーム対抗 青葉の森
10月6日(月) スキー運営委員会
10月13日(月) テニス55歳以上 男子S 青葉の森
10月16日(木) 船橋卓球ダブルス大会 船橋アリーナ (サブ)
10月17日(金) 卓球運営委員会
10月25日(土) テニス男子S 高浜庭球場
10月26日(日) テニス年齒別女子D 高浜庭球場
野球協トーナメント戦
10月28日(火) ウォーキング協議会例会

10月15日(水) 4役会議
10月16日(木) 常任理事会

11月

11月3日(月) 野球協トーナメント戦 横濱球場
11月8日(土) テニス会長杯混合D 稲毛海浜庭球場
卓球大会個人戦(オープン) 宮野木SC
11月15日(土) テニス男子シニア370チーム対抗 青葉の森
11月16日(日) テニス会長杯 青葉の森
ミックスバレー秋季交流大会
11月24日(月) 野球協トーナメント戦 天台球場
11月25日(火) ウォーキング協議会11月例会
11月27日(木) 卓球船橋シングル大会 船橋アリーナサブ
11月29日(土) テニス会長杯55歳以上男子S 天台B
11月30日(日) テニス会長杯女子D 天台B
11月8日(土)~9日(日) 全国交流ウォーク(滋賀)
11月15日(土) スポーツ連盟60周年記念(名古屋)

【スポーツの秋」全開?! 季節外れの暑さ対策は?

この9月は、世界陸上での日本人選手の活躍、大相撲では16年ぶりに横綱同士の優勝決定戦、プロ野球・阪神／ソフトバンクホークスのリーグ優勝、メジャーリーグ・大谷翔平選手が所属するロサンジェルス・ドジャースの西地区優勝などなどまさに「見るスポーツの秋」たけなわの状況でした。

11月には日本で始めてとなるデフリンピックも開催されます。

NLBもCSや日本選手権、MNBもポストシーズンに入り益々目が離せない状況が続きます。

しかし、地球温暖化の影響からか9月になっても中々気温は下がらず10月を迎える時期になっても夏日を観測する日が続出。長期予報によればこの暑さは10月以降も続くとのこと。

世界陸上では猛暑が選手に与える影響を考えて男女マラソンや男女35キロ競歩のスタート時間を30分早め午前7時半としました。

世界陸連では、将来的に世界選手権のマラソンを本大会から切り離して、別の時期に開催する方針を固めたという報道もあります。

読者の皆さんもご存じと思いますが、2019年・ドーハ大会では深夜スタートしたにも関

わらず、32℃の過酷なレースとなり途中棄権者が続出しました。この結果を受けて2021東京五輪の際は、東京から札幌に開催地を変更しましたが、それでも暑かったことは記憶に新しいところです。

世界陸連の新しい方針では、2031年大会以降に独立させる方針で11月開催のアテネ・マラソンを同大会のレースとする案が検討されています。

ドーハ大会50キロ競歩で優勝した選手がその後1年以上、体調不良を訴えた事例があると伝えられています。

競技団体として選手の安全・安心に向けた取り組みが求められます。

私たち市民スポーツも熱中症対策を真剣に考えなければならないそんな時代になってきているんですね。

早くこいこい秋本番、でもすぐに冬になってしまいそう?!近い将来スポーツの秋と言われる日がなくなるかもしれませんね。



理事長の独り言